

巖木中学校 学校便り

学芸部副部長
辛川 友斗さん

令和2年8月28日



巖木中教育目標

「主体的、協働的に取り組む生徒の育成」

文責：校長 古舘洋治

1 第2学期 始業式 8月24日(月)

短い夏休みでしたが、満足いく日々になりましたか？

夏休み中に、大きな事件・事故の報告は受けていません。元気な姿を見せてくれて安心しました。

新型コロナウイルスが流行しています。佐賀県でも連日感染者が出ています。2学期も感染防止の対策を1学期以上に心がけてほしいです。

①「発熱」「せき」の症状がある人は、病院で受診。無理して登校しない。

②毎朝の検温を忘れず行う。

③手洗い手消毒を小まめに行う。

④マスクは基本的に着用して、必要に応じて外す。

学校でも家庭でも、常に心がけましょう。現在の感染者の状況を考えると行事なども1学期以上に制限された中での活動になると思います。そのような中でも努力を惜しまず、「明るく元気な活力ある学校」にしてほしいですね。一人一人が生き生きと活躍する、爽り多い学期にしてほしいと思います。

2学期のスタートにあたって1つの話をします。「自分の行動は自分で決めよ。」ということです。次の詩を紹介しします。

『今、ここで、何をするか、何をしたらよいか、何をしてはいけないかを、自分で考え、自分で決めて、行動せよ。それが主体性というものだ。他にひきずられるな、つきあいと称して自分の思いとか考えとかと違った生き方をするな。何をすべきかを自分で決めて、それを為せ。してはならないことを自分に言い聞かせて、それをするな。自覚して生きよ。ぼんやりしているな。為すべきことを自分で決め、それを為せ。動け！』

24時間テレビ「愛は地球を救う」でも『動く』がテーマでした。

「友達に誘われたから…」と言い訳をすることがありますが、最後は自分で決めたことです。他人のせいにすることはできません。「動く＝行動を起こす」です。

2学期は、周りに左右されることなく、行動してください。特に3年生は進路決定がまっています。将来を見据え、しっかり考えてください。2年生は生徒会の引継ぎ、1年生は中学生としての自覚をもつ2学期です。



最後に、巖木中学校は、人権を侵害するようないじめは絶対に許しません。先生方は敢然と立ち向かいます。あなた方を守ります。悩んでいることがあれば、どの先生でもいいです。相談してください。しっかり対応します。

2 平和集会 7月31日(金)

7月31日に生徒会による平和集会を行いました。この日に向けて、全校生徒でDVDを鑑賞したり千羽鶴を折ったりするなど、生徒会が中心となり準備を進めました。当日は「音速雷撃隊」という動画を観



ました。漫画家：松本零士(れいじ)さんのつくられたアニメでした。内容は、第二次世界大戦末期、人間爆弾と言われた特攻兵器である戦闘機：桜花(おうか)と、その搭乗員、そして桜花の周りの搭乗員たちの心情を描いた作品です。広島に原子爆弾が投下される場面もありました。その後、意見発表がありました。そして、動画をバックに加茂さんと淵上さんが隊員の手紙を朗読して、平和について真剣に考えました。

最後は、平和宣言で集会を終えました。山田生徒会長が手元の原稿なしでみんなに伝えた平和宣言全文を紹介しします。(裏面)



…(前半省略)…中には、皆さんと同じ年頃の子供たちが命を危険にさらしている国もあります。私たちは、歴史から学ぶことができます。戦争は無くさなくてはならないことも学んできました。

…(中略)…最後にお願ひがあります。赤ちゃんは思うとおりにならないときどうするか知っていますか。手足をばたばたさせるのです。ちょっと大きくなったら、歩けるようになったら、たたいたり、けったり、物を投げたりします。でも、中学生にもなったら、それは良くないことだと学び、人をたたいたり、けったり、物を投げたりしなくなります。そうして、けんかもしなくなるのです。戦争は、物を使った大きなけんかです。今も小さい子どものように、人をたたいたり、物を投げたりしているのであれば、それは学んでいることになりません。私たちは、平和を願うだけでなく、今の生活の中にある戦争の種となるものを無くすところから始めましょう。

巖木中平和宣言



想像してみてください。

1発の原子爆弾により、自分の家族が、友達が一瞬にして
焼けただれ、苦しみ、死んでいく姿を
これが核兵器の恐怖です。

1945年 8月6日 8時15分、 8月9日 11時2分
今から75年前に、原子爆弾が広島と長崎に投下されました。
私たちの世代や、親の世代は、戦争を知りません。

ですが、悲惨な歴史を忘れてはいけません。

そして、繰り返してはいけません。

戦争は、人が人の命を奪います。戦争は、罪のない多くの
人々が尊い命を奪われ、たくさんの方が悲しみます。

なぜ、何の罪もない人が、死ななければならないのでしょうか。

「平和への第1歩は、身近な平和から」

日本は今、戦争はしていませんが、国内のどこかで毎日、
悲しい事件が起こっています。いじめによる自殺や殺人。
親が子供を殺したり、子供が親を殺したり。

ニュースにはならなくても皆さんの身近に悲しいことが起こっていないでし
ょうか。

自分に問いかけてみてください。身近な人を、力で、言葉で、態度で傷つけて
いませんか。

「身近な平和から」それは私たちにできることです。

まずは、相手の立場に立って考えること。思いやりの心をもって接すること。

「ありがとう」「ごめんね」と言葉を交わして心をつなぐこと。

心を大切にすること。

かけがえのない自分の命、自分の心を大切にしよう。心豊かに生きよう。

私たちは、身近な平和、心の平和を大切に生きていくことをここに宣言します。

生徒会長：山田剛優